

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成24年3月15日(2012.3.15)

【公開番号】特開2010-264327(P2010-264327A)

【公開日】平成22年11月25日(2010.11.25)

【年通号数】公開・登録公報2010-047

【出願番号】特願2010-197733(P2010-197733)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月27日(2012.1.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

第1始動口への入賞が生じたことにもとづく可変表示の第1実行条件が成立したことにもとづいて第1識別情報の可変表示を開始し表示結果を導出表示する第1可変表示手段と、第2始動口への入賞が生じたことにもとづく可変表示の第2実行条件が成立したことにもとづいて第2識別情報の可変表示を開始し表示結果を導出表示する第2可変表示手段を有し、前記第1可変表示手段と前記第2可変表示手段のいずれかに特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態に移行させる遊技機であって、

前記第1可変表示手段および前記第2可変表示手段で識別情報の可変表示が実行されていないことを条件として、前記第1実行条件が成立した後可変表示の第1開始条件が成立したときに前記第1可変表示手段で第1識別情報の可変表示を開始し表示結果を導出表示し、前記第2実行条件が成立した後可変表示の第2開始条件が成立したときに前記第2可変表示手段で第2識別情報の可変表示を開始し表示結果を導出表示する可変表示制御手段と、

前記第1開始条件が成立した前記第1可変表示手段における可変表示開始時から可変表示終了時までの可変表示時間を含む可変表示パターンを選択するための第1可変表示パターン選択処理と、前記第2開始条件が成立した前記第2可変表示手段における可変表示開始時から可変表示終了時までの可変表示時間を含む可変表示パターンを選択するための第2可変表示パターン選択処理とを、同一の処理ルーチンにより実行して、前記第1可変表示手段および前記第2可変表示手段のうち、可変表示の開始条件が成立した可変表示手段における可変表示パターンを複数の可変表示パターンから選択する可変表示パターン選択手段と、

前記可変表示パターン選択手段により選択された可変表示パターンにもとづいて、前記第1開始条件が成立したときに前記第1可変表示手段において実行される可変表示の可変表示時間を示す第1データと、前記第2開始条件が成立したときに前記第2可変表示手段において実行される可変表示の可変表示時間を示す第2データとを、同一の記憶領域に記憶する可変表示時間記憶手段とを備え、

前記可変表示パターン選択手段は、前記第1開始条件が未だに成立していない前記第1実行条件の成立数である第1保留記憶数と前記第2開始条件が未だに成立していない前記第2実行条件の成立数である第2保留記憶数との合計数が所定数以上である場合に、該合

計数が所定数未満であるときに比べて高い割合で短縮された可変表示時間を含む可変表示パターンに決定する

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

本発明による遊技機は、第1始動口への入賞が生じたことにもとづく可変表示の第1実行条件が成立（例えば、第1始動口13への入賞）したことにもとづいて第1識別情報（例えば、第1特別図柄）の可変表示を開始し表示結果を導出表示する第1可変表示手段（例えば、第1特別図柄表示器8a）と、第2始動口への入賞が生じたことにもとづく可変表示の第2実行条件が成立（例えば、第2始動口14への入賞）したことにもとづいて第2識別情報（例えば、第2特別図柄）の可変表示を開始し表示結果を導出表示する第2可変表示手段（例えば、第2特別図柄表示器8b）を有し、第1可変表示手段と第2可変表示手段のいずれかに特定表示結果（例えば大当たり図柄）が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態（例えば大当たり遊技状態）に移行させる遊技機であって、第1可変表示手段および第2可変表示手段で識別情報の可変表示が実行されていないことを条件として、第1実行条件が成立した後可変表示の第1開始条件が成立したときに第1可変表示手段で第1識別情報の可変表示を開始し表示結果を導出表示し、第2実行条件が成立した後可変表示の第2開始条件が成立したときに第2可変表示手段で第2識別情報の可変表示を開始し表示結果を導出表示する可変表示制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS27（ステップS305～S310を除く）を実行する部分）と、第1開始条件が成立した第1可変表示手段における可変表示開始時から可変表示終了時までの可変表示時間を含む可変表示パターンを選択するための第1可変表示パターン選択処理と、第2開始条件が成立した第2可変表示手段における可変表示開始時から可変表示終了時までの可変表示時間を含む可変表示パターンを選択するための第2可変表示パターン選択処理とを、同一の処理ルーチンにより実行して、第1可変表示手段および第2可変表示手段のうち、可変表示の開始条件が成立した可変表示手段における可変表示パターンを複数の可変表示パターンから選択する可変表示パターン選択手段と、可変表示パターン選択手段により選択された可変表示パターンにもとづいて、第1開始条件が成立したときに第1可変表示手段において実行される可変表示の可変表示時間を示す第1データと、第2開始条件が成立したときに第2可変表示手段において実行される可変表示の可変表示時間を示す第2データとを、同一の記憶領域に記憶する可変表示時間記憶手段とを備え、可変表示パターン選択手段は、第1開始条件が未だに成立していない第1実行条件の成立数である第1保留記憶数と第2開始条件が未だに成立していない第2実行条件の成立数である第2保留記憶数との合計数が所定数以上である場合に、合計数が所定数未満であるときに比べて高い割合で短縮された可変表示時間を含む可変表示パターンに決定することを特徴とする。そのような構成によれば、第1開始条件が成立したときと第2開始条件が成立したときとで同じ処理を実行する命令（例えばサブルーチン等）を重複してプログラムする必要がなくなり、遊技制御に必要なプログラム容量を最小限まで圧縮することができる。